

府立勤労者福祉会館あり方検討委員会第3回会議

- 1 日 時 令和4年7月25日（月）13:30～15:00
- 2 場 所 ホテルルビノ京都堀川 地下1階 平安の間
- 3 出席者 真山会長、上田委員、滋野委員、瀧田委員、長谷川委員、原委員、水野委員、山本委員（以上8名）
- 4 概要
 - ・ 勤労者福祉会館のあり方を検討する論点について確認した。
 - ・ 今後の検討の進め方について意見交換を行った。
- 5 委員からの主な意見
 - 各地域に根ざした会館が、将来的にも地域の施設として何を担っていくのか、行政の責務を踏まえて議論していく必要がある。
 - 地域の方々が会館をなぜ利用するのかという付加価値について考察することが、施設見直しの材料になるのではないか。
 - 会館設立当時と現在では、勤労者を取り巻く状況や働き方が異なる点を踏まえて検討していく必要があり、会館全体ではなく、地域の実情に応じてそれぞれの会館毎に検討する必要がある。
 - 勤労者福祉会館という名称が、府民に親しみのある名称なのか。より多くの方にアピールできるやり方を考える必要がある。
 - どの施設も老朽化が進行しているため、安全面が危惧される。利用者ニーズにあった会館のリニューアルも含めて、議論できれば良いと思う。
 - 職業訓練は必要とされていると理解するが、将来のニーズを見極めて長い目で見ていく必要がある。訓練全般で民間の講座等の状況はどうなっているか調査が必要である。
 - 勤労者福祉という目的を検討する際には、利用されてきた方や現在の利用者の評価が参考となるのではないか。
 - 類似施設との競合を検討する際には、特に、営利競合する会議室については、利用目的や利用者の属性など利用の実態についての分析が必要に思う。